

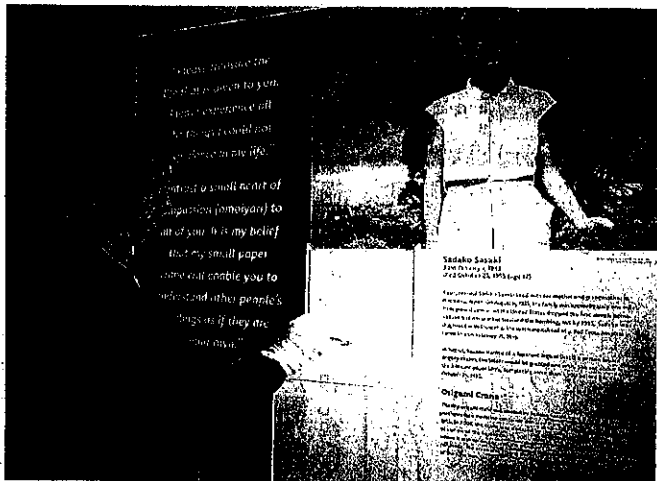


【ニューヨーク共同】約3千人の命を奪った2001年の米中枢同時テロから11日で23年。東部ニューヨーク州の州立博物館は10日、テロ関連の常設展示に広島で被爆し、12歳で亡くなった佐々木禎子さんが残した折り鶴を加えた。原爆とテロの惨事をそれぞれ経験した人々に共通する「平和への願い」の象徴としてい

米同時テロ23年

る。
 禎子さんのおいの祐滋さん(54)は東京都中野区。は共同通信の取材に「愛する人を一瞬で奪われた痛みは原爆もテロも変わらない。折り鶴でそれが伝わり、世界の争いが少しでも減ればうれしい」と語った。
 テロの標的となったニューヨークの世

禎子さんの折り鶴展示



米ニューヨーク州の州立博物館で佐々木禎子さんの折り鶴を展示する関係者(上)と展示された禎子さんの折り鶴(9日、ホールパニ 共同)



NY州立博物館 「平和への願い」象徴に

界貿易センタービル跡地では11日に追悼式典が開かれ、発生時刻に合わせて鎮魂の鐘を鳴らし、遺族らが犠牲者の名前を讀み上げた。バイデン大統領とハリス副大統領、トランプ前大統領が出席した。州都オールバニにある州立博物館が展示したのは禎子さんが赤い葉包紙で折った幅約1センチの鶴。元々、テロ犠牲者らの家族会に贈られ、世界貿易センタービル跡地近くの追悼施設で展示されていたが、22年に施設が閉館し、現場の残骸などテロ関連の収蔵品が多い博物館に移された。
 博物館の学芸員アロン・ノープル氏(43)は取材に「悲劇の中でも希望を抱き続けた12歳の禎子さんの物語を特に若い世代に知ってほしい」と訴えた。折り鶴の劣化を防ぐため、毎年9月に実物を展示し、他の時期は複製を置く。

